

豪州で記録的降雨、資源輸出に影響も

オーストラリア東部で記録的な降雨が続き、洪水などの被害が広がっている。炭鉱から積み出し港まで石炭を運ぶ鉄道も一部で運行を停止した。今後も降雨が続けば資源輸出に影響が出かねない。シドニーがある豪東部ニューサウスウェールズ（NSW）州を中心に18日から降雨が続いている。同州では23日までに計1万8000人が避難した。豪公共放送ABCによると、シドニーの北約150キロにあるネルソン・ベイでは21日までの3日間で458ミリの降雨があり、記録のある1889年以降で最大となった。豪気象庁によると、熱帯からの湿った空気が豪東岸の気圧の谷にぶつかり、激しい降雨をもたらした。同州のベレジクリアン州首相は「100年に1度の出来事」と述べ、警戒を呼びかけた。モリソン豪首相も23日の記者会見で「悪天候は24日夜までには落ち着くが、洪水によりあふれた水は当面残る」と懸念を示した。

シドニーの北に位置するハンターバレー地区には、石炭火力発電で燃やす一般炭の炭鉱が多くある。豪鉄道線路公社（ARTC）は、石炭を積み出すニューカッスル港と炭鉱をむすぶ路線の一部で貨物列車の運行を18日に停止した。23日時点で再開していない。「降雨や深刻な洪水、強風、倒木、停電などへの懸念」（同公社）を受けた予防的措置という。同港に出入りする船舶にも悪天候の影響が出ている。スイス資源大手グレンコアや豪英BHPグループは、ハンターバレー地区の炭鉱で生産量を落として操業している。ある資源関係者は「降雨が長引けば輸出に影響が出る可能性もある」と指摘する。豪州では19年後半から20年初頭にかけては森林火災が多発し、BHPの石炭生産などが影響を受けた。



洪水で浸水する家屋(22日、NSW州ロンドンデリー)=AP

北米産パルプ値上げ

対日2月積み、4カ月連続

印刷用紙や家庭紙の原料になる北米産パルプの2月積みの日本向け輸出価格交渉は値上げで決着した。値上がりは4カ月連続。中国で印刷用紙や家庭紙需要が堅調。一方、パルプメーカーの生産停滞や海上コンテナ不足による輸送の遅れで供給が絞り込まれ、国際的に需給が引き締まっている。

ティッシュペーパーなど家庭紙向け原料の指標、針葉樹さらしクラフトパルプ「N-BKP」の2月価格(運賃込み)は1ト890ドル前後と前月比120ドル(約16%)高い。主に印刷用紙に使う南米産広葉樹さらしクラフトパルプ「L-BKP」は同740ドル前後で前月から70ドル(約10%)上昇した。

ウメト インフォメーション

2021年3月23日

担当 坂田

ユーグレナ、バイオ燃料をガソリンスタンドで試験販売

ユーグレナは22日、同社が開発を進めるミドリムシ由来のバイオディーゼル燃料をガソリンスタンドで試験的に販売すると発表した。これまで企業が保有するディーゼル車や船舶などに直接販売してきたが、一般消費者に販売するのは初めて。販路を広げ、バイオ燃料の認知度向上を狙う。

ガソリンスタンドを運営するライフ白銅（東京・中央）の「セルフかつしか6号店」（東京・葛飾）で、4月9日から11日まで販売する。ディーゼル車が対象で、軽油の代わりにユーグレナのバイオ燃料を販売する。販売量は非開示で、価格も今後詰める。

ユーグレナは2025年までにバイオ燃料製造の商用プラントを建設する予定。将来的には一般向けにバイオ燃料の販売を目指しており、ガソリンスタンドでの試験販売を通じ、事業性などを見極めたい考えだ。



ユーグレナは22日、バイオ燃料をガソリンスタンドで試験的に販売すると発表した



バイオマスプラスチック

兵庫に新工場建設

リスパック

岐阜プラスチック工業グループで食品容器などを手がけるリスパック（大松栄太社長）は、植物由来のバイオマス樹脂原料を配合した食品包装容器の生産を拡大する。22日、兵庫県加西市に新工場用地を取得、2022年4月に新工場の建設に入ると発表した。持続可能な社会の実現や環境負荷低減につながる食品容器の需要は国内外で急拡大しており、同社グループも植物由来樹脂を原料とする食品容器の生産・販売が年々増加している。新工場建設で西日本市場における安定供給と同時に、バイオマスプラスチック原料の容器のさらなる普及・拡大につなげる。

同社グループは数年前から「生産拡大のみならずバイオマス食品容器に関する総合的な技術と生産ノウハウの蓄積」（大松社長）を目指し、兵庫県加西市で用地を選定中だった。今回、約2億円で

同市の加西インター産業団地内で約7万平方メートルの工場用地を取得した。生産能力は未公表だが、22年4月に延べ床面積2万平方メートル規模の第1期分の新工場を着工、24年4月の完成を予定する。

近年の社会的な環境対応の流れを背景に、同社の植物由来原料による食品容器アイテムは約2400種類、原料別に6素材まで拡大している。容器売上高全体に占める植



加西新工場のイメージ

物由来のバイオマス食品容器割合は約25%超となっており、今後も増加する見通し。